

し ょ う わ つ う し ん

Show-a 通信

2017.3
第21号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています。

医療法人彰和会の「彰和 (Showa)」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

生活の質を保つ治療へと進歩した 抗がん剤治療

～普段通りの生活を送るための「がん治療」～

消化器内科 医長
佐々木 尚英





生活の質を保つ

治療へと進歩した

抗がん剤治療

～普段通りの生活を送るための「がん治療」～

消化器
Frontier

がん医療
新時代

高齢化が進む日本では2人に1人が一生のうちには一度は「がん」になるといわれており、高血圧や糖尿病と同じように頻度の高い身近な疾患になりました。がん治療の中でも抗がん剤治療は副作用による体へのダメージが強調されてきましたが、現在は副作用管理が進み、効果を得ながら通常の日常生活を送ることができます。

がん治療への総合力を
高める抗がん剤の効果

抗がん剤治療は進行がんや再発・転移がんの治療において、がんの進行を抑え、症状を和らげる役割を果たします。がん治療を継続しながら、生活の質を維持できることから、多くの患者さんが通院で抗がん剤治療を受けています。

また、手術と併用することで、手術前に切除する範囲を縮小させたり、手術後の再発率を減少させるなどの効果が期待できます。

近年、数多くの新薬が登場し、その組み合わせも複雑化していることから、当院では抗がん剤の専門医が主治医と相談しながら患者さん個々人の治療法を選択し、薬剤師と共に薬の種類や使い方を決めていきます。副作用管理は、外来や病棟の看護師と連携しながら早期に対応しています。

また、定期的な血液検査で、骨髄抑制、肝臓や腎臓などの臓器に障害が起きていないかをチェックするなど、充実した治療体制を入院と外来に整えています。

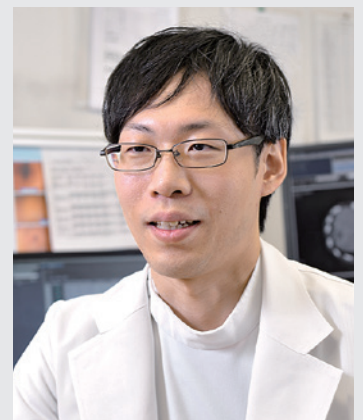
がんとの共存を
目指すための治療へ

どのような薬でも正常細胞に何らかの影響を与えるものですが、抗がん剤は副作用が強く現れる場合があり、期待され

る治療効果と予想される副作用を天秤にかけ、「効果を得ながら、副作用を抑えるようにバランスを調整する」ことが重要になります。

副作用として現れる症状は、脱毛や吐き気、皮膚障害など多岐にわたるため、「抗がん剤治療はつらい」「体をボロボロにする」という印象があるようですが、副作用対策は日々進歩しています。治療前に予測や予防が可能になっており、生活の質を損なわない程度に副作用をコントロールできるようになりました。闘病中でも自分のやりたいことをしたり、子どもや孫と楽しく過ごすなど、「がん」と共存しながら、自分らしい人生を送るために欠かせない治療」になっています。

また、当院には緩和ケアの専門医がおり、体への負担を最小限にして適切に痛みを治療をしています。適量の薬を使っても痛みを取ることは、痛みを我慢するよりも、はるかに大きいメリットがあります。



消化器内科
医長 佐々木 尚英

北海道大学医学部卒業
北海道大学病院、NTT東日本札幌病院、釧路労災病院、国立がん研究センター東病院、市立稚内病院を経て、2016年5月に北海道消化器科病院に着任
【学会認定資格】
日本内科学会総合内科専門医

抗がん剤治療の主な役割

- がんの進行を抑え、症状をコントロールしながらがん治療を継続する
- がんに伴う症状を緩和し、可能な限り発症前に近い状態の日常生活を目指す
- 切除手術との併用で治療成績を向上させる（術後補助療法、術前補助療法）

北海道消化器科病院での抗がん剤治療チーム体制

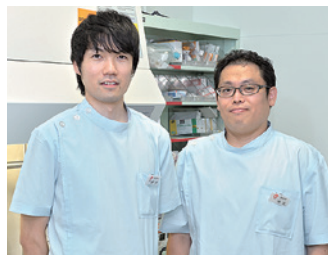
医師以外の医療スタッフも大きな役割を果たしています



化学療法室



外来化学療法室カンファレンス



外来がん治療認定薬剤師



薬剤部の外来ミキシングルーム

抗がん剤治療の副作用対策が進んだことから、がん治療を外来通院で受ける患者さんが増えています

※不安を抱えながらの抗がん剤の外来治療とならないよう、患者さんやご家族のご希望に応じて入院治療も行っています。

Bさん 40代 女性

症例 2

副作用をコントロールし、自宅で日常生活を送る

- ▶健康診断で胃潰瘍疑いを指摘され、精密検査の結果、進行胃がん（ステージⅣ）の診断
- ▶効果と副作用のバランスを考えながら、通院で治療できる抗がん剤を選択し、治療と家事・子育てを両立
- 質の高い生活を送ることを目標に外来通院で抗がん剤治療を継続



Aさん 80代 男性

症例 1

抗がん剤治療で切除可能となり治癒を目指す

- ▶直腸がんの手術後、再発し肝転移が出現
- ▶大きな腫瘍で切除困難でしたが、抗がん剤治療を行ったところ肝転移が縮小し、その後、外科的に切除
- 治癒を目指し、外来通院で抗がん剤治療を継続



抗がん剤治療前



抗がん剤治療後

がんが縮小しているのが分かります

医療技術を向上させるため、
職員全員がつねに学び続けています

9/27 医療機器安全研修
SAGES
Fundamental Use of
Surgical Enrgyに学ぶ



◆講演「目から鱗！電気メスの基礎原理と関連有害事象」

講師：北海道大学大学院 医学研究科 消化器外科学分野 II
札幌共立五輪橋病院 外科医師 渡邊祐介先生

10/25 院内感染対策研修

◆テーマ「高カロリー輸液と感染対策」

講師：大塚製薬工場 札幌支店
札幌営業所一課 係長 梅田直樹氏



11/28 消化器病臨床病理懇話会・特別講演会

◆特別講演「大腸癌肝転移に対する治癒を目指した治療戦略」

演者：公益財団法人 がん研究会 有明病院 消化器外科
肝胆膵外科部長 齋浦明夫先生

12/12 札幌市東区プライマリーケア研究会

◆講演「悪性腫瘍に随伴する静脈血栓塞栓症
Venous thromboembolism
(VTE) について」

演者：北海道大学病院 がん遺伝子診断部
特任助教 林秀幸先生



◆講演「骨粗鬆症治療薬の最適な選択と使い方
～骨折の連鎖を止めるために～」

演者：北海道大学病院 整形外科
助教 高橋大介先生



Show-a Topics

主な業務内容

医療連携業務

- 地域医療機関との連絡調整
- 病病・病診連携に関する連絡・手続き
- 紹介患者の診察・検査の予約や管理
- 転院、施設入所、退院などの支援

相談支援業務

- 医療費、生活費などの経済的問題への対応
- 医療、介護など各種制度の案内
- 退院後の療養、介護について支援

医療連携相談室は、地域の医療機関や保健・福祉サービス機関などの連携窓口です。患者さんに切れ目のない医療・福祉・介護サービスが提供できるように支援・調整するほか、入院や通院治療に伴う経済的・心理的な不安や心配事など、患者さんやご家族のさまざまな相談に応じています。

昨年は新たに2人の職員が加わり、医療ソーシャルワーカー3人と看護師1人の4人体制となりました。「迅速できめ細かい支援」を心がけていますので、お気軽にご相談ください。



(左から) 牟田和史、高橋のぞみ

医療連携
相談室

マンパワー充実！
これからも、患者さんの立場に立った
迅速できめ細かい支援を



患者さんやご家族からのご相談は、1階カウンターに直接お越しいただくか、医師・看護師にお申し出ください。面談・電話相談など随時対応いたします。ご相談内容についての秘密は厳守いたします。

相談時間 月曜～金曜 9:00～17:00 電話 (011)784-1811 (代表)



医療法人 彰和会
HGH 北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、消化器外科、外科、肛門外科、
緩和ケア内科、放射線科、麻酔科、病理診断科

- 設立：1988年2月20日
- 住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
- 電話：011-784-1811 □ FAX：011-784-1838
- ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
- 病床数：199床